

CCS～温暖化対策の産業界における切り札と成り得るか～

開催趣旨

科学技術交流フォーラムは、東京大学産学連携協議会会員企業等を対象として、東京大学研究者が研究成果や「知」を発信する「産学出合いの場」です。

本フォーラムが産学連携の契機となり、近未来の社会・経済にとって「解を出すべき技術課題」に対して、専門分野・産業界を横断したチームが形成され、産学連携活動を企画・実行し、その課題解決が図られることを目指しています。

今回の第11回フォーラムでは、地球温暖化対策技術としての二酸化炭素の回収・貯留（CCS）技術の実用化可能性という、昨今、話題のテーマを取り上げます。

地球温暖化問題は、洞爺湖サミットの主要議題でもあった現在、最も重要な世界的課題です。そして、CCS（CO₂ Capture and Storage）は、温暖化対策の面からもエネルギー安全保障の面からも、有望な技術として注目を集めています。例えば、洞爺湖サミットG8の共同声明として、CCSが、気候変動とエネルギー安全保障に取り組む際に重要な役割を持つこと、また、2020年までのCCSの幅広い普及の開始に向け、技術開発やコスト削減を支援することを目的として、各国の多様な国情を考慮しつつ、2010年までに20の大規模な実証プロジェクトを立ち上げる必要があることが発表されています。こうした政策的なバックアップを受けて、現在、日米欧、中国、豪州等においてCCSを巡るさまざまな活動が活発化しています。一方で、CCSの実用化までには、技術的にも経済的にも、そして、社会的にも、まだまだ、解決すべき課題があることも事実です。

本フォーラムでは、日米欧等におけるCCSを巡る最新の動向、各種課題とその対応策を含めた今後のCCSの見通し、エネルギーシナリオから見たCCSの可能性などをそれぞれの第一線の研究者中心に語っていただきます。

2008.8.27 (水)

13:30～17:20

フォーラム 東京大学 山上会館 2階 大会議室

交流会 東京大学 山上会館 1階ラウンジ (本郷キャンパス)

主催：東京大学産学連携協議会運営本部（東京大学産学連携本部内）

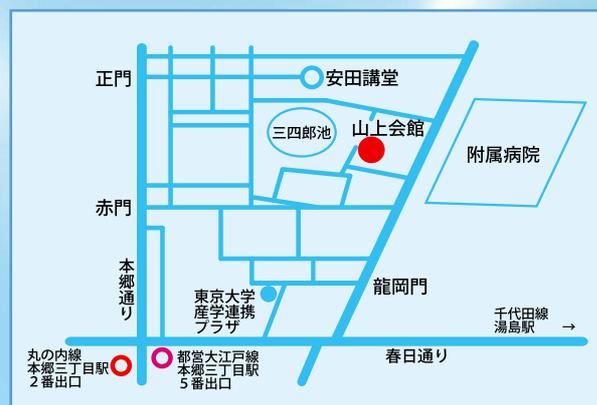
参加定員：150名（事前登録制—先着順、登録はウェブ上で）

参加費：フォーラム 無料（交流会 3,000円）

申込締切：8月22日（金）

申し込み：東京大学産学連携協議会運営本部事務局（東京大学産学連携本部内）

問合せ先：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/kyogikai/forum/>



CCS～温暖化対策の産業界における切り札と成り得るか～

プログラム

13:30～13:35 開会挨拶 藤田 隆史 (東京大学 産学連携本部長)

13:35～13:45 挨拶 山田 興一 (東京大学 産学連携担当理事)

13:45～14:45 **講演1** 「欧米のCCSに関する主要政策と産業界の動向について」

村岡 元司 (株式会社NTTデータ経営研究所
社会・環境戦略コンサルティング本部 パートナー)

14:45～15:45 **講演2** 「CCSのエネルギーモデル評価とシナリオ策定について」

藤井 康正 (東京大学 大学院工学系研究科 原子力国際専攻 教授)

15:45～16:00 休憩

16:00～17:15 **講演3** 「CCSに係わるロンドン条約の改訂と国内法制定について」

大隅 多加志 (財団法人電力中央研究所 客員研究員)

17:15～17:20 閉会挨拶 太田 与洋 (東京大学 産学連携本部 教授・産学連携研究推進部長)

17:30～19:00 交流会

司会 堀 雅文 (東京大学 産学連携本部 特任教授)